



2024 夏休みおすすめ本 5・6年生

『おばけは本当にいるの?』 147才

岡島 康治/著 しも ゆきこ/絵 PHP 研究所
 この本は、なその美女からカレーライス500皿分という金額の報酬で「おばけの正体を調べてほしい」という指令を受けたふしぎ調査隊の話です。売れない中年作家の隊長と、論理的思考の持ち主の小学6年生のももや隊員、大学生の美少女 T T まり隊員の3人は、妖怪博士や靈感の強い人を調べたり、妖怪搜索したりして調査結果を出します。そしてその結果をなその美女に伝えたところ、思いもよらないことが起こった…論理的思考を楽しく身につけられる本です。

『世界あちこちゆかいな家めぐり』 2-383コ

小松 義夫/文・写真 西山 昌/絵 福音館書店
 世界中のあちこちでおもしろい家を探して写真を撮っている写真家の小松さんが、美しい写真で世界のユニークな家を紹介しています。家の外観だけではなく、内部の造りやその家で暮らす人々の様子もイラストで紹介しています。みなさんはどの国の家に住んでみたいですか?家を通じて世界を知ることができ、旅をしているような気分にもなれますよ。

『ヒロシマをのこす 平和記念資料館をつくった人・長岡省吾』

佐藤 真澄/著 汐文社 319サ
 1945(昭和20)年8月6日、午前8時15分一。広島に原子爆弾が投下されました。あの日、爆心地では何が起こっていたのでしょうか。原爆の惨さを後世へ伝えるため、被爆資料の収集に命をかけた人がいました。彼の信念に、あなたは何を思うでしょうか?

『江戸の空見師 嵐太郎』 913サ

佐和 みずえ/作 しまざき ジョセ/絵 フレーベル館
 江戸の町に住む空見(=天気予報)の得意な少年・嵐太郎のもとに、その空見の才能を認められて浦賀奉行所からたのみごとがやってくる。それは「アメリカのペリー提督が乗った黒船がふたたび日本に来る日を知りたい」というものであった。はたしてこの空見を始めて以来の大仕事に、嵐太郎はどう立ち向かうのか!?

『奮闘するたすく』 913マ

まはら 三桃/著 講談社
 夏休みの自由研究で、おじいちゃんを通う「ケアハウスこもれび」をレポートする事になった、たすくと友達の一平。そこで出会った介護する側とされる側の人たちの交流の在り方や、思わず「なるほど～」と思えるたくさんの言葉。それはみんなが友達との関係に悩んだ時にも、きっと役立つはず。「ケアハウスこもれび」みんなも訪ねてみませんか?

『しかばねの物語』 929シ

星 泉/編訳 蔵西/絵 のら書店
 主人公デチュー・サンボは犯した罪を償うため、幸いをもたらす「しかばね」を探して連れてくることになった。しかしそれは簡単なことではない。「しかばね」を背負って連れてくる間、デチュー・サンボはひと言もをきいてはいけなからだ。退屈な道中をやりすごすため、「しかばね」は物語を話しはじめたが、そのお話があまりにもおもしろかったため、デチュー・サンボはつい口をすべらせてしまい……。

